

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	<p>⑫【自分と地域社会】</p> <p>自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。</p>	総合・特活
<p>【題材】 被災地での体験学習、被災地のボランティア、講演会</p> <p>【対象】 2年生及び全校生徒</p> <p>【実践の概要・詳細】</p> <p>本校では、昨年度、復興教育として以下の内容について、学習を進めた。</p> <p>「知る」…「生き方講演会」として、ふじポンさんと釜石中学校から赴任した平野教諭から被災地の様子やボランティアの現状について教えられた。</p> <p>「見る」…被災地である釜石市・大槌町・山田町を見学した。</p> <p>「聞く」…多くの被災者（先生・大槌町民・釜石市民）から直接話を聞いた。</p> <p>「する」…避難所体験（雑魚寝宿泊）とボランティア活動（海岸清掃・草刈り・花植え）。</p> <p>「伝える」…生徒一人一人がポスターセッション用のシートを作成し、文化祭で展示した。</p> <p>そして、代表者が文化祭で全校生徒や保護者に体験したことや学んだことを報告した。</p>		
<p>その実践で大切にすることは、次の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 次年度への意欲付け ② 被災地支援はボランティアだけではないという考え方の指導 <ul style="list-style-type: none"> ・被災地にはおいしい食べ物がある。（消費） ・被災地には美しい景色がある。（観光） ・海は本来楽しく遊べる場所である。（遊ぶ） ③ 体験を通して、繰り返し学習すること。 ④ 震災以前の姿に戻し、夏休みや将来は、家族と遊びに行きたいと思う気持ちを育てること。 ⑤ 被災地との関わりを継続していこうとする心を育てること。 		
<p style="text-align: center;">今年度の本校の復興教育事業の内容</p> <p>第2学年を復興教育をすすめる中心学年と位置づけるとともに、3年目となる生徒会のボランティア活動や講演会を主な柱とした。</p>		
<p style="text-align: center;">2学年による被災地での体験学習とボランティア活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対象 2学年 48名 2 期日 平成25年9月4日（水）～5日（木） 3 場所 陸前高田市、大船渡市、釜石市方面 4 その他 学年の宿泊研修行事として企画、実施 		
<p style="text-align: center;">生徒会リーダーを中心とした被災地でのボランティア活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対象 生徒会執行部と有志40名が参加 2 期日 平成25年8月9日（金） 3 場所 陸前高田市 4 その他 北上市社会福祉協議会との共催事業として実施 		
<p style="text-align: center;">「おもかげ復元師」の著者 笹原留似子さんの講演会</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 対象 全校生徒 保護者 地域住民 2 期日 平成25年11月29日（金） 3 演題 「いのちの大切さ～東日本大震災の活動を通して～」 4 その他 和賀地区青少年健全育成会との共催事業として実施 		



2学年の復興教育の内容（宿泊研修事業として企画、実施）

- 1 大船渡市視察（津波伝承館）
被災者で津波伝承館の代表である、さいとう製菓専務さんから震災時の様子を直接聞き、自分の命は自分で守ることが大切であるということ学んだ。生徒にとって最も印象深い内容であった。
- 2 陸前高田市（ボランティア活動）
雨の中、小学生や地域の方々が使用するグラウンドの草取り作業を一生懸命に行った。
- 3 震災学習列車（三陸鉄道の企画）
震災学習列車に乗り三陸鉄道職員から、過去の津波の被害も含めた震災の様子や先人の教えについて学んだ。
- 4 大槌町・釜石市視察
大槌町役場や鶴住居町防災センターを再度視察し、復興が遅れていることを実感した。前年度に整備した花壇に花が咲いている様子に生徒達は大変喜んでいました。
- 5 釜石市内で昼食、買い物
仮設商店街で各自が昼食をとった。店の人と話したことも生徒達には大変印象に残ったようである。仮設商店街で食事をしたり、土産を買ったりすることも、立派な復興支援であることを教えた。
- 6 学習のまとめ
生徒一人一人が今回の研修で学んだことを個人新聞としてまとめ文化祭で展示した。また、大地震と津波からの避難、避難所生活、両親の死、そして、釜石ラーメン店でのやり取りについて、台本をつくり創作劇として文化祭のステージで演じた。
最後は全員で「花は咲く」を合唱した。この合唱は、北上ケーブルテレビによって後日に放映される予定である。



生徒の感想 「被災地に行って思ったこと」

1年生の時は、初めてボランティアをする人が多かったけれど、海岸清掃や花壇整備など全員で行い、被災地の復興に少し関わることができました。また、その時は暗い印象や怖い印象を受けていた被災地でしたが、実際に訪れてみると、きれいな海が視界いっぱい広がっていて明るい印象を持ちました。

今回行ってみたら、昨年と被災地の様子は全く変わっておらず、復興が進んでいないことを痛感しました。そんな中でも弱い姿を見せずに、元気に前向きに生きようとしている被災地の方々の生き方にたくさんのことを教わりました。これからも、自分にできる復興支援をしていきたいと思っています。

まとめ

【成果】

- ① このような取り組みを通して、生徒たちの意識に大きな影響を与え、人や地域社会に対して、自分たちから関わっていくことの大切や、自分自身がしっかり生きていくことの大切さを自覚させることができた。
- ② 学校としての復興教育の実践活動の礎ができ、今後の実践意欲を高めることができた。

【課題】

- ① さらに工夫した復興教育の実践活動
- ② 生徒や地域の実態に応じた継続的な活動となる実践の検討



地域の方の感想（笹原さんの講演会）

今日はありがとうございました。笹原さんの本は読んでいましたが、笹原さんの熱い思いを伺い、感動しました。特に亡くなったお母さんの顔の復元する話には涙が出ました。生徒の皆さんと一緒に聞くことができ良かったです。